



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月7日

上場会社名 エバラ食品工業株式会社
コード番号 2819 URL <https://www.ebarafoods.com>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森村 剛士
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画統括本部長 (氏名) 粟野 裕 TEL 045-226-0238
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
四半期決算説明会開催の有無： 無

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	35,128	2.3	2,761	△15.3	2,927	△15.0	1,984	△16.4
2023年3月期第3四半期	34,353	△0.5	3,258	△7.9	3,443	△8.8	2,373	△13.8

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 2,409百万円 (△3.8%) 2023年3月期第3四半期 2,504百万円 (△8.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	202.18	—
2023年3月期第3四半期	241.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	47,926	32,978	68.8	3,358.11
2023年3月期	43,152	30,933	71.7	3,152.80

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 32,978百万円 2023年3月期 30,933百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2024年3月期	—	20.00	—		
2024年3月期（予想）				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,500	2.5	2,000	△32.7	2,100	△34.0	1,400	△35.7	142.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

2024年3月期の連結業績予想の1株当たり当期純利益は、2023年12月31日までの自己株式取得の影響を考慮して算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	10,468,710株	2023年3月期	10,468,710株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	648,250株	2023年3月期	657,345株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	9,816,580株	2023年3月期3Q	9,825,010株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、新価値創造による企業成長を目指すため2019年度から2023年度までの5ヵ年の中期経営計画「Unique 2023 ～エバラらしさの追究～」を推進しております。基本とする戦略方針を「コア事業による収益強化と戦略事業の基盤確立」「“エバラらしく&面白い”ブランドへの成長」と定め、企業成長に向けたチャレンジを継続し、エバラの独自性、面白さに磨きをかけて、当社グループの根幹を支えるコア事業の収益強化を図っております。また、将来の成長ドライバーとなる戦略事業を推進し、国内外で新たな需要、市場を開拓することで、事業規模の拡大とエバラブランドの育成を図っております。

当第3四半期連結累計期間（2023年4月1日～2023年12月31日）における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、経済活動の緩やかな回復が見られた一方、緊迫した世界情勢や物価の上昇により、先行き不透明な状況が続いています。食品業界におきましては、原材料価格及び物流費の高騰に伴う食料品の値上げが続いており、外食等の消費行動に回復の動きが見られるものの、消費者の節約志向は依然継続しております。

このような環境の下、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、351億28百万円（前年同期比2.3%増）となりました。

食品事業の業務用商品においては、第2四半期に引き続き外食店の来店客数の回復基調が続き、各商品群の売上が伸長しました。家庭用商品は、鍋物調味料群、野菜まわり調味料群が減収となったものの、価格改定商品の価格定着による売上回復もあり、肉まわり調味料群が伸長したほか、『プチッとうどん』が伸長したその他群も売上を伸ばし、全体では前年同期比で増収となりました。

利益面につきましては、各種原材料価格高騰の影響により、営業利益は27億61百万円（前年同期比15.3%減）となりました。経常利益につきましては、29億27百万円（前年同期比15.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、19億84百万円（前年同期比16.4%減）となりました。

セグメントごとの売上高は、次のとおりであります。

<食品事業>

売上高は296億62百万円（前年同期比2.8%増）となりました。

(家庭用商品) 前年同期比 増収

- ・肉まわり調味料群につきましては、前年同期比で増収となりました。

商品リニューアルによる販売機会の拡大や鶏肉需要の増加により『やきとりのたれ』等が価格改定後も堅調に売上を伸ばしました。

- ・鍋物調味料群につきましては、前年同期比で減収となりました。

新商品を投入した『プチッと鍋』（ポーション調味料）の伸長に加え、テレビCM等の露出を強化した『すき焼のたれ』が価格改定後も売上を伸ばしました。鍋物調味料群全体では最需要期である第3四半期において前年同期比増収となるも、第2四半期までの減収を補うには至りませんでした。

- ・野菜まわり調味料群につきましては、前年同期比で減収となりました。

『浅漬けの素』が価格改定前の需要増加（第2四半期）の反動もあり、第3四半期では低調に推移しました。

- ・その他群につきましては、前年同期比で増収となりました。

第2四半期に引き続き、『プチッとうどん』（ポーション調味料）が売上を伸ばしました。

(業務用商品) 前年同期比 増収

- ・外食店の来店客数の回復基調が継続したこともあり、商品価格改定後も販売が堅調に推移し、肉まわり調味料群、スープ群、その他群の各群において売上が伸長しました。
- ・海外現地法人の業務用商品の売上増が増収に寄与しました。

<物流事業>

既存顧客との取引拡大を進めるも、幹線輸送の需要減少の影響を受けたことにより、売上高は50億60百万円（前年同期比0.5%減）となりました。

<その他事業>

広告宣伝事業及び人材派遣事業ともに新規顧客の獲得を進めるも、一部の取引が終了した影響により、売上高は4億5百万円（前年同期比3.5%減）となりました。

売上高の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

事業名称及び商品群名	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	対前期比 (%)
食品事業	28,846	29,662	2.8
家庭用商品	22,764	22,880	0.5
肉まわり調味料群	9,505	9,533	0.3
鍋物調味料群	8,677	8,660	△0.2
野菜まわり調味料群	2,440	2,352	△3.6
その他群	2,140	2,333	9.0
業務用商品	6,081	6,782	11.5
肉まわり調味料群	2,210	2,411	9.1
スープ群	2,146	2,441	13.7
その他群	1,724	1,930	11.9
物流事業	5,086	5,060	△0.5
その他事業 (広告宣伝事業、人材派遣事業)	420	405	△3.5

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産額につきましては、前連結会計年度末に比べ47億74百万円増加（前期比11.1%増）し、479億26百万円となりました。

流動資産につきましては、現金及び預金の減少があるものの、受取手形及び売掛金の増加等により、前連結会計年度末に比べ11億70百万円増加（前期比4.0%増）し、306億51百万円となりました。

固定資産につきましては、有形固定資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ36億4百万円増加（前期比26.4%増）して、172億75百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計額につきましては、前連結会計年度末に比べ27億29百万円増加（前期比22.3%増）し、149億48百万円となりました。

流動負債につきましては、未払金の減少があるものの、支払手形及び買掛金、その他流動負債の増加等により、前連結会計年度末に比べ19億78百万円増加（前期比23.8%増）し、102億89百万円となりました。

固定負債につきましては、長期借入金、退職給付に係る負債の増加等により、前連結会計年度末に比べ7億51百万円増加（前期比19.2%増）し、46億58百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産額につきましては、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ20億44百万円増加（前期比6.6%増）し、329億78百万円となりました。当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は68.8%（前期末は71.7%）、1株当たり純資産額は3,358円11銭（前期末は3,152円80銭）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ63億18百万円減少し、112億72百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、26億6百万円（前年同四半期は18億円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益において29億35百万円獲得、仕入債務の増加額10億42百万円により増加したものの、売上債権の増加額61億2百万円により減少したものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、35億50百万円（前年同四半期は8億52百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出29億55百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出4億35百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、2億77百万円（前年同四半期は3億95百万円の獲得）となりました。これは主に、配当金の支払額3億90百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の通期連結業績予想につきましては、2023年5月15日に公表した業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日（2024年2月7日）公表した「2024年3月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,502	12,322
受取手形及び売掛金	7,501	14,092
商品及び製品	1,689	2,003
原材料及び貯蔵品	838	847
その他	953	1,395
貸倒引当金	△5	△10
流動資産合計	29,480	30,651
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,391	3,772
その他(純額)	5,782	8,493
有形固定資産合計	9,173	12,266
無形固定資産		
	286	501
投資その他の資産		
投資有価証券	1,965	2,237
繰延税金資産	1,355	1,250
その他	908	1,029
貸倒引当金	△18	△10
投資その他の資産合計	4,211	4,507
固定資産合計	13,671	17,275
資産合計	43,152	47,926

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,681	6,116
短期借入金	—	192
1年内返済予定の長期借入金	—	92
未払金	1,688	1,264
未払法人税等	544	520
賞与引当金	411	214
役員株式給付引当金	27	30
その他	958	1,858
流動負債合計	8,311	10,289
固定負債		
長期借入金	—	467
退職給付に係る負債	3,416	3,598
資産除去債務	304	307
その他	185	285
固定負債合計	3,906	4,658
負債合計	12,218	14,948
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,387	1,387
資本剰余金	1,657	1,657
利益剰余金	28,701	30,292
自己株式	△1,584	△1,557
株主資本合計	30,161	31,781
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	460	681
為替換算調整勘定	316	506
退職給付に係る調整累計額	△4	9
その他の包括利益累計額合計	772	1,197
純資産合計	30,933	32,978
負債純資産合計	43,152	47,926

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	34,353	35,128
売上原価	20,979	21,979
売上総利益	13,374	13,149
販売費及び一般管理費	10,115	10,388
営業利益	3,258	2,761
営業外収益		
受取利息	10	9
受取配当金	33	41
売電収入	35	33
持分法による投資利益	7	10
為替差益	92	63
その他	27	25
営業外収益合計	205	184
営業外費用		
支払利息	1	1
売電費用	15	14
その他	4	2
営業外費用合計	21	18
経常利益	3,443	2,927
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	—	10
特別利益合計	0	10
特別損失		
固定資産除却損	4	1
特別損失合計	4	1
税金等調整前四半期純利益	3,439	2,935
法人税等	1,066	951
四半期純利益	2,373	1,984
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,373	1,984

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	2,373	1,984
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40	221
為替換算調整勘定	80	190
退職給付に係る調整額	11	13
その他の包括利益合計	131	425
四半期包括利益	2,504	2,409
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,504	2,409
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,439	2,935
減価償却費	785	754
固定資産売却損益(△は益)	△0	△0
固定資産除却損	4	1
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△10
賞与引当金の増減額(△は減少)	△220	△205
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	△17	2
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	175	141
受取利息及び受取配当金	△43	△51
支払利息	1	1
持分法による投資損益(△は益)	△7	△10
売上債権の増減額(△は増加)	△6,028	△6,102
棚卸資産の増減額(△は増加)	△345	△173
仕入債務の増減額(△は減少)	1,046	1,042
未払消費税等の増減額(△は減少)	53	105
未払金の増減額(△は減少)	△225	△394
その他	320	246
小計	△1,063	△1,715
利息及び配当金の受取額	42	50
利息の支払額	△1	△1
法人税等の支払額	△778	△940
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,800	△2,606
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付金の回収による収入	201	12
貸付けによる支出	—	△110
定期預金の預入による支出	△26	△116
投資有価証券の売却による収入	—	27
投資有価証券の取得による支出	△33	△9
投資有価証券の償還による収入	—	100
有形固定資産の売却による収入	0	0
有形固定資産の取得による支出	△907	△2,955
無形固定資産の取得による支出	△107	△82
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△435
その他	21	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△852	△3,550
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100	100
配当金の支払額	△401	△390
自己株式の取得による支出	△147	△0
自己株式の売却による収入	23	13
自己株式取得のための預け金の増減額(△は増加)	820	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	395	△277
現金及び現金同等物に係る換算差額	64	117
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,192	△6,318
現金及び現金同等物の期首残高	15,765	17,590
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,572	11,272

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

当社は、2021年12月13日、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得すること及び具体的な取得方法について決議し、2022年4月1日から2022年11月30日までに自己株式50,100株の取得を行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が147百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が1,557百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	食品事業	物流事業	計		
売上高					
外部顧客に対する売上高	28,846	5,086	33,932	420	34,353
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	28,846	5,086	33,932	420	34,353
セグメント利益又は損失(△)	3,691	151	3,843	△45	3,797

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、人材派遣事業を集約しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,843
「その他」の区分の損失(△)	△45
全社費用(注)	△539
四半期連結損益計算書の営業利益	3,258

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	食品事業	物流事業	計		
売上高					
外部顧客に対する売上高	29,662	5,060	34,722	405	35,128
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	29,662	5,060	34,722	405	35,128
セグメント利益又は損失(△)	3,131	143	3,274	△50	3,223

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、人材派遣事業を集約しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,274
「その他」の区分の損失(△)	△50
全社費用(注)	△462
四半期連結損益計算書の営業利益	2,761

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、丸二株式会社の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。

これにより、「食品事業」において、のれんが225百万円発生しております。